

司教座聖堂獻堂式

昭和47年11月23日

その後、教会の建設に尽くしてきた施工者・大林組、設計者・富家設計事務所に感謝状と記念品が贈呈された。つづいて、奈良教会のベルナルド牧父(マリースト会)による「オブルガ」の演説で、聞き入り参列者は各自神への感謝と、この聖堂設立につづいて来られた古屋司教はじめ、司祭方、その他の関係者への感謝の心にみたされ、同時にこの聖堂が眞に信者の神との交わりの場所、神に光榮を与える場、使徒職の道具となり京都教区にいや、日本中、世界中に奉仕するものとなるよう、心から神に祈つていたことだらう。



今日盛大に司教座聖堂の献堂式を挙行することができ、

心からの感謝と喜びにみたま
れています。

古屋司教の説教から

はならないのです。充実して
本当に意味のある喜び方をし
なければならないのです。

才の時から毎年エルザレムの神殿にお登りになりました。私達も形式的にここに集まるの

司祭はローマン・カラードを

黒、紺、又は地味な背広を着用する」（以上）

ところで、司祭や修道者は

この教会ができるためには、多くの方々のご指導、ご協力、ご理解、ご支援、ご協力、ご理解、ご感謝いたしました。神様に感謝されるとともに、建設のためには、日々、感謝して下さった方々に心から感謝します。

の教会は芸術的な教会だといいますか、なんといっても、いたい歓物の存在にすぎない。魂をもつて、魂をつめるものでできる人間が、の冷たい歓物を価値づけてくことができるのです。私がこうして盛大な献堂式をするのは、この家、物質 자체尊いからではなく、その中の神様とその魂、魂が充満しており、その魂が清く、美く、聖なるものであるからこそ、この聖堂も聖なるものしなければならないのです。

神様は常に在すから、えて教会を必要としないと言える人もいます。しかし私は、人間に環境というものが切で、静寂な気持で折れる必要です。キリスト様も

ではなく、本当に神と語り合いで、神との一致を深め、靈と眞理と誠を尽して礼拝しようと。この教会において、魂は洗禮によって心を清められ、靈的病にかかれば告解の聖蹟によって回復をもつて善を行なうために毎朝、毎日躍日ごとにえられ勇氣をもつて善を行なうために毎朝、毎日躍日ごとにサに預り、ご聖体を捧領しお恵みをいただくことができます。若い人が新しい世代を造つていくために婚姻の儀式をうけ、最後は永遠の世界に旅立つていく時に神様に送られたそのなきがらは最後の別れをここででするのです。教会は私たちが生まれ生活していく場所で、これを本当に充実感を感謝し、これを本当に育てて置いて下さったものに感謝して下さい。

カトリック新聞10月16日
に、「修道者の服装で誤つ
解釈」という見出しが、次
のような記事が掲載された。
〔バチカン発〕バチカン
修道者聖者は8月26日、全
世界にいる教皇の外交官と
道者会議の各議長を書簡を
つて、修道士・修道女の服
の刷新に関する第二バチカ
公会議の指示について誤つ
解釈がなされていることを
告し、「修道女は信徒と同
ような服装をすべきでは
なく、何らかの形での身
を明らかにしなければなら
ない」と注意を促した。

的なものであれば良い」と
教官する傾向があちこちにみ
れだしたことに対し、教令を
正しい解釈を強調したもの
と思われる。

なお同書簡は、司祭の服
について「彼らは、いつも
ローマン・カラーメまたはそ
に類する何らかのもので外
に身分を表示すべきである
とも述べている。(以上
トリック新聞号から)

これに説明を付け加える
昭和42年8月17日-19日
で開催された日本市教協議会
臨時総会で決定された司祭
服装について、教区事務局は

(イ)「気候、場所、機
に応じて自ら適当であ
断する場合、背広、ネ
をつけることができる
「但し司祭バッジを

神と靈魂に奉仕する公的使命をもつ人々である。誰でも、いつでも司祭は司祭であると「はつきり」見分けられるよう、その尊い使命を外的にもあらわすように、ローマン・カラーリをつけるのは当然のことである。

“カテキスターの定義を明らかに”

司祭評議会第七回定例會議から

月11日、司祭評議会第七

「カテキスターの定義を明らかに」司祭評議会第七回定例会議から
9月11日、司祭評議会第七回定例会議では以下の事項について討議された。

教区カテキスター秋の総会にはましのメッセージを送ることなどに同意した。なお教区

教区カテキスタ秋の総会に
ましのメッセージを送ること
などに同意した。なお教区

(2) 教区事務主任より、アーノルド・チャーチ・デュネラリース（共同裁罪）は日本では適用されないと、又、教区献金では年間経費の六割に満たないことなどが報告された。
(3) 小教区の司牧をする司祭の任期年制について、小教区の言葉でアーノルドトリー

京都市民はもちろん、日本中から集まる旅行者も、世界各国の観光客も必ず散策するのが河原町通りである。京都都教座聖堂は、教区の機関・umbo面でも、使徒職のためにも、信者の便宜のためにも恰好な所に位置している。これはパリ外国宣教会、特にビリヨン神父の先見の明と寛大さのおかげである。師は初代大司教として旧教会の建築をはじめとしていたのである。山口教区に転任された師の後継オレンティス神父の時、明治23年5月1日、旧河原町教会聖堂が設立祝聖された。式で、その美しさに魅かれた聖堂にはいったのが改心のきっかけになつたという信者は

少くない。京都市民はもとより全國の人々、特に芸術家から愛敬されていた聖堂は、カトリック信者には格別な愛着を覺えたものであつた。

当時京都は大坂教区の一部であった。昭和11年、古屋神父（現在の司教）が河原町司祭としてその初代邦人司祭としてその司牧にあつた。翌12年、京都市府、奈良県、滋賀県、福井県、京都教区として設立し、メリノール会に委託され、バーン師が初代教区長に任命された。古屋神父は河原町司教の主仕事となつて、昭和14年には教区長となつた。昭和26年京都教区は司教区として昇格し、同年、古屋神父は初代司教として祝聖さ

れ、河原町教会が司教座聖堂に指定された。昭和27年以来丸山神父が司教総代理と、主任司祭を努めている。

なお聖堂のデザインは、ペトロイラー・師、ステンドグラスは、イスの専門家ハンス・ストック氏、聖堂前のプロンズの聖母子像は、内田克氏によるもので、パイプオルガンは西ド・イツのボッシニ社の製作である。会館はもとより、聖堂のステンドグラスからオルガニカル側の負担によるもので、ホテルの建物は75年後にはそまた全部教区に返還されることになっている。

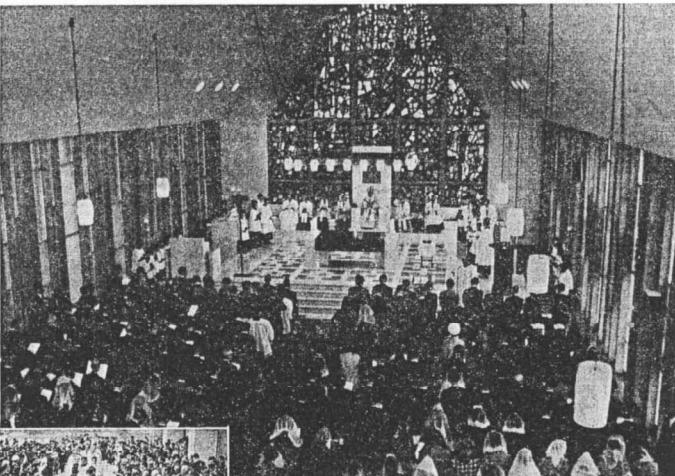
また、明治村に解体寄贈された旧聖堂も、来春23日には、ミサ聖祭も挙げられる程立派に復元完成される予定である。

は、眞の神の使者であるといふことを、もうほんと信じていなかつた。」とヒーナン枢機卿は述べた。

同権機卿は、司公会から45人、カトリック司教14人を含む、イギリスとアイルランドの主な宗派の教会指導者四百余人から成る会議において、「今日と明日のローマ・カトリック教会」という主題で講演した。彼はその講演で、次のように述べた。第二バチカン公会議がもたらした祝福の一つは、エキュメニズムである。しかしカトリック者は、他のキリスト者をローマに戻そうと、もはや考えなくなつた。

旧河原町教会から 新司教座聖堂

新司教座聖堂に至るまで



(写真上) 司教座聖堂を埋めた参列者

(写真左) 聖堂前の広場を進む行列

うことで許可がおり、話が進められた。ところで当敷地に

對話崇拜

ヒーナン板機郷語

信仰のふるさとを巡礼 ~~~~~ カナの会の近況から ~~~~

古屋司教會、河原町教会、五島列島教會を訪ね、
巡り旅に出かけました。以降は、古い教会の
歴史を語り出し、その歴史を語る中で、五島
の教会、五島列島教會を訪ねました。

く飾感くんでならけげ為にた会がつは處五前

河原町教会にいて、現在おられる高須さんは、この伝説の元げで、おられた。おもに馬鹿に思つたため出掛けは不在で、にも拘わらず、「司教さんにも拘わらず」というので各修道院で大歓迎を受けました。「とにかく信仰が厚い」と驚き感激しました。宗教に対する想いが、とても強烈で、それに対しては頑張つて来た人たちがいるのです。」「司教さんが集まると、皆さんすぐに集まつてしましました。服装も、とにかく整え、礼儀正しく、力強く、云々」は云えました。祭壇に向かって、お祈りになりました。古い金具で、手入れされており、神を

心に皆が助け合っているとい
うで心を温めを感じること。ステ
ンドグラスの横の椅子に、う
ずくまつて一心にお祈りして
いる82才のおばあさんがいら
っしゃいました。都会は見
られない光景で、とても印象
に残っています。私達も、共
通の目的をもつてゐるため
か、よく一致して仲良く気持
のよい旅行をしました。」等
々、皆それなりに感激し
て帰つて来ました。
なお、「カナの会」は、四
年前司教様を中心に発足した
もので、現在京都近郊の有志
約百三十人の結婚援助を目的と
おり、主に結婚援助を目的と
するもので、時々旅行や講演
会等も行なつてゐる。

し、まして口に出さなくなつた。「キリスト教を分裂させた意見の見方の、意義のいろはなどどうなののかはつきり確認することこそ、こそ真のエキュメニズムの本質である。」

エキュメニズムの次に、討論——大きな影響——が今度の教會論で大きな影響を受け及ぼしていると枢機卿は指摘した。対話は「それが生産的な時のみ良いもの」であって、それがもじめだけでは恵んでいたり、ただ語るだけではなくて、その教会の大きな弱点の一つでありうる。彼は「会合」とか会議の根本的削減を求めていた。対話の現在もたらしている重荷は、單純に肉体的エネルギーを消耗させるだけでなく、「自己陶酔とか個人的祈りを怠るなどの精神的倦怠をもたらす」ことである。「司祭生活や修道生活を離れた多くの人は、もし彼らがつくるとのない対話を熱中していなかつたら、まだ私たちと一緒にいただらう。」

書籍紹介

主にまとめたもので、この本は何か目新しいこととか、かわったことを含んでいるわけではなく、多くの司祭が日本中で見道書に教えるようなことを書いた本である。本は、話の録音テープから直接書かれたものであるらしく、会話を調で、生き生きとしてわかりやすい。ただ、もう少し直旨く纏めすればよかつたものと惜しい。この本は組織的に書かれた入門書でも要理ででもないが、カトリックの要理を勉強する予備として、また一般未信者に推薦するに値するものである。

主キリストを囲んでみな一つに集まろう

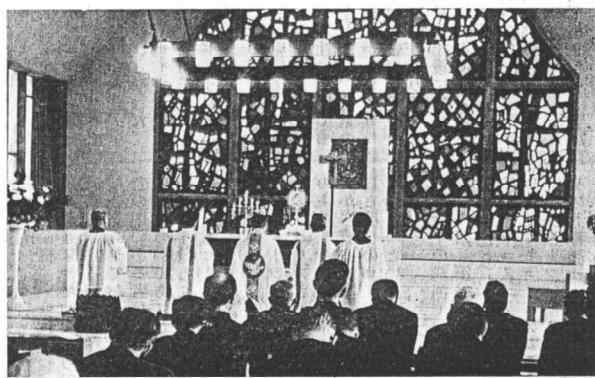
三京都教区司祭・修道士懇親会をのぞく三

みな一つに集まろう……。」
（交唱「ウビ・カリタス」聖週間の「サジ・貞・カリタス」）
葉は、10月30日河原町教会で
催された京都教区司祭・修道士懇親会の春開氣をよくあら
わしています。この懇親会は
でき上がったばかりのカトリック会館を、ご自分の司祭にて
披露する目的を兼ねて、古屋司教の
司教の主催で行なわれたもの
です。

会館6階大会議室において
午前11時、村上（兄）古屋司教の父の
司会により、古屋司教は、
さつて始まり、古屋司教は、
この会館完成までの経緯など



親会に出席した司祭・修道士



聖體降福式

新 司 祭 誕 生

10月29日、古屋司教司式のもとに、久木師の叙階式が奈良教会で行なわれた。小山師の百合親、3人の弟さんと、親戚の方々をはじめ、わざわざこの日の為にオーストラリアから来られたイラン管区長、吉都教区の教区司祭、修道司祭、マリスト会司祭、それに各地方からかけつけた新司祭と一緒に

小山久木神父叙略

奈良県の各教会から集つた信者の団体等多数の人々が参列した、奈良教会在上・下階とも満席という盛況ぶりであつた。全員心を一つにし、声を合わせて祈り歌う中で、式は厳かに行なわれた。小山師が幼少の時から侍者をつとめて育つたこの奈良教会では、田紀二六男爵につづく第二回司祭誕生とあつて誇りと喜びがあふれていた。

小山師の初ミサは、翌30日奈良教会で捧げられ、つづく一週間、京都、奈良の教会でごミサを捧げられた。再び神学院に戻つて勉学を続けられ来春からは、親しい信者のいる奈良県で、主のために働きかける予定である。



● 報紙編集部では、より良い時報を心から期待している。各小教区での活動ぶりなどを各小教区の活動ぶりなどを、お寄せ願いたい。

● 来年もまた、みなさんに役立つ時報をお届けしたい。一生涯努力するつもりなので、ご指導、ご協力を下さい。

● 新しい善き年を平和のうちに迎えられますよう心からお祈り致します。

●前号で紹介した「教区の時間」の
教会の司祭と同日ミサ時間の移
動などがあつて、一部変更し
ているが、改めて来春号に掲
載する予定である。

- 教区時報復刊後2号も、司教座聖堂祝聖式の、大きな喜びのニュースで、紙面も4版と、新しい希望の時がやって来た。

京都教区の者にとっておなじみのYBUに、この度NTV社長賞が授与された。これは年間の最優秀番組に対し、授与されるもので、対象となつたのは、「放送された「心のもとしび」のローマ教皇との特別謁見」の模様を取材したものである。

N.T.V. 社長賞

ハヤット師に引率された
聖地巡礼旅行団 78人はロ
馬 日 3月29日、ローマ教皇
調見に参与した。その後、
表者として、ハヤット師、遠代
藤周作氏、三浦文門氏、曾野
経子氏、それに司会の特別調
査官 ローマ教皇と特別調
査官を受けることが出来た。
又特別調見室では、

Y B U 放送番組

テレビ <心のともしび>
読元TV (水・木曜)
AM 10:30 ~ 10:45

ラジオ <心のともしび>
近畿放送 PM. 11:50~
ラジオ関西 AM. 0:55~
<太閤のはえみ>
近畿放送 AM. 9:45~
ラジオ関西 AM. 6:50~

初めてのテレビ取材が許可され、その時の模様を伝えたのがこの番組である。